

1 学校の状況と地域の実態

- ◇明治6年に「川島学舎」として開校し、平成25年度に「くぬぎ台小学校」と「(旧)川島小学校」が統合して現在に至る。平成27年度には創立140周年を迎えた。学区には「陣が下溪谷」をはじめとする豊かな自然を有しながらも、新興住宅地、団地などの集合住宅、商店街が混在している
- ◇親子4代川島小学校に通っている児童も在籍し「わがまちの学校」という意識をもつ地域の方は多い。学援隊も組織され、教育活動に積極的に支援の手を差し延べてくれている。「学校運営協議会」を設置し、学校と保護者、地域との連携をより一層強化し、学校との信頼関係を深め、学校経営の改善や児童の健全育成に取り組んでいく。
- ◇児童は明るく、人懐こい子が多い。自己中心的な言動が原因でトラブルになる姿も見られるが、友達や異学年、地域の方との交流活動を活性化することで、相手の立場に立って考える他者意識が育ってきた。

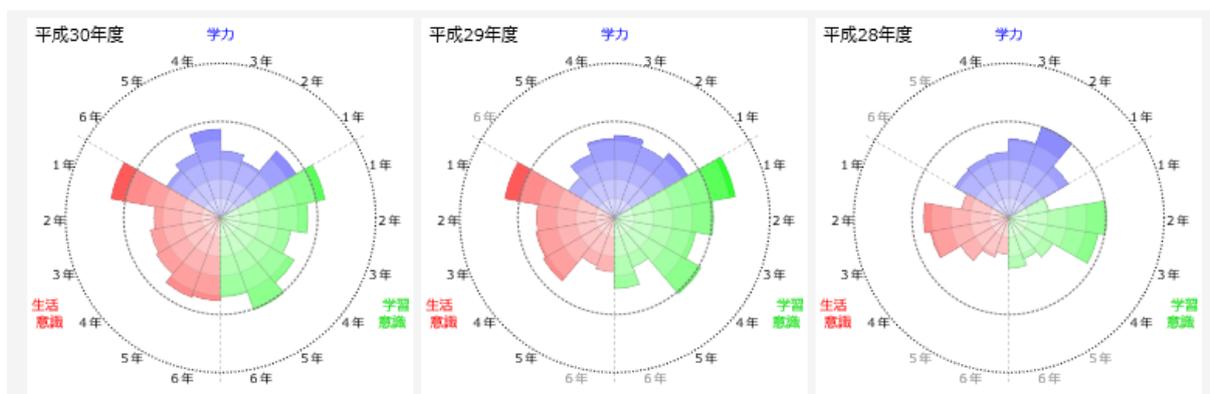
2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針

- ◇ 認め合い、学び合いを通して児童の自己有用感を高め、自ら学習に取り組み、自分に自信をもてる子の育成を目指す。
- ◇ 体育、生活・総合的な学習の時間、道徳科の研究を中心に授業改善に努め、教師の授業力向上を図ると共に、校内支援体制を整備し、少人数指導等、児童一人ひとりにあった丁寧な指導、支援の充実を図る。
- ◇ 地域の人的・物的資源の掘り起こしを行い、社会に開かれた教育課程の推進を図るとともに、様々な人と関わる中で児童の育成を図る。
- ◇ 日々の授業はもとより、朝学習や家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



(2) 教科学習の状況

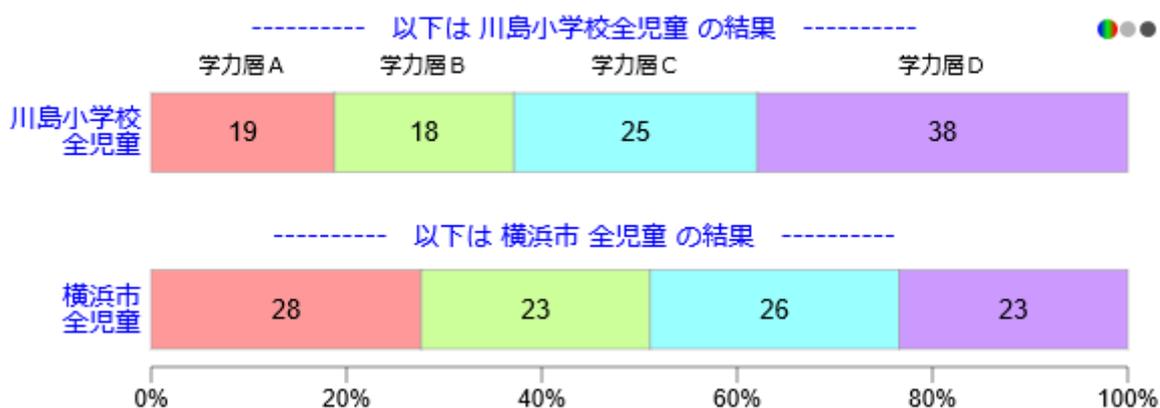
- ◇ 国語科：B層までを比較すると、市55%に対し、本校38%と国語を苦手としている児童が多い。前年度と比較すると、A層は微増だが、B層の割合が大きく減少した。課題をしっかりとらえ、課題解決のための根拠となる情報を見つける力を身につけさせたい。

国語科 学力層



- ◇ 社会科：B層までを比較すると、市51%に対し、本校37%と苦手意識が顕著にみられる。年度別比較をすると、D層が年々少しずつ減少している。

社会科 学力層



- ◇ 算数科：B層までの割合が市55%に対し、本校41%である。4教科の中ではB層までの割合が一番多く、D層が最も少ない教科であるが、前年度に比べ、D層は増加している。低学年の基礎・基本の定着が不十分で、学年が上がるにつれてさらに学力の定着が難しくなっていることが考えられる。基礎・基本の定着が課題である。

算数科 学力層



- ◇ 理科：前年度と比較し、B層までの児童が増えた一方、D層の児童も増加した。4教科の中でB層までの割合が34%と一番少なく、D層も4割を超えていて、本校児童がもっとも苦手意識を感じている教科である。課題をとらえ、課題解決のための方法を考えられるようにしたい。

理科 学力層



4 平成31年度 目標と具体的方策

平成31年度 目標

資質・能力を身に付け、自己肯定感を高める学びの創造

～子どもたちの考えをもち、学び合い、認め合うことができる子の育成～

学校組織としての共通の取組み

- ◇ 児童が授業に集中して学習に取り組めるよう、児童が話をしっかり聞くことを教師が意識して授業を行う。
- ◇ 認め合い、学び合いの活動を取り入れ、教え合ったり、協働思考をしたりする中で、児童が自らの考えを深められるようにする。
- ◇ 学習スタンダードを作成し、学習のルールを全学年で統一して指導を行う。
- ◇ 3年生以上の学年で算数の少人数指導やTTによる授業を行い、個に応じた指導の充実を図る。
- ◇ かがやきルームでの取り出し授業の精度を高め、個に応じた指導、支援の充実を図る。
- ◇ 生活科、総合的な学習の時間を中心に地域の人材を生かした教育活動の推進、充実を図り、学校の強みを生かした教育課程を作成する。
- ◇ 朝学習と家庭学習を通して、基礎学力の定着を図る。

① 朝学習の取組み

月	花	水	木	金
国語（語彙・言葉）	国語（書く）	国語（読む）	算数（計算）	※朝会・集会

② 家庭学習の取組み

音読、漢字学習や計算の技能の習得、プリントなどを宿題として提示し、基礎的な学習内容の定着を図る。

③ 高学年一部教科担任制

チーム・マネジャーの役割を中心にした高学年ブロックの運営を実践的に検証し、改善を図りながら持続可能な教科分担任の仕組みについて成果と課題を明らかにしていく。児童の心の安定と授業力向上を目指す。

④ 校内重点研究

【重点研究テーマ】

資質・能力を育成し、自己肯定感を高める学びの創造
～子どもたちの学び合い、認め合いを通して～

今年度から重点研究教科を【算数】に設定する。理由として、答えがある程度明確であるため、「分かる楽しさ」を実感しやすく、自己肯定感を高めやすいと考える。また、多様な考え、新たな見方や考え方を受け入れ、一人ひとりの考えや活動のよさを認め合う場を設ける。これは、川島小学校のゆめっ子像「人に優しくできる子」につながると考える。そして、教師の授業力向上につなげる。